



◀基準を厳しく審査する堀内部長

次年度の栽培や良食味米として有利販売へつなげる

稲作部会

稲作部会（堀内直富久部会長）は12月9日、JAあきた白神本店にて「あきたこまち食味コンテスト2015」を開催し、組合長をはじめ地域振興局農林部や能代市、藤里町職員、青年部や女性部から13名が審査員を務め、一般家庭でも使用されている炊飯器で炊いたお米を食べ比べました。

このコンテストは、当JA管内で栽培された米の品質を高め、良食味米として有利販売につなげようと今年初めて行われました。1次審査として11月下旬に生産者から提出された、お米のうま味や粘りなどを調べるために成分分析を行い、その中で高評価を得た5点がこの日の食味審査に

進みました。「外観」「香り」「味」「粘り」「硬さ」の5項目とし、米の輝きや白さ、つや、甘み、歯応えなどを実際に味わいながら審査をしました。

審査された5点の米は、年明けにJAあきた白神独自の良食味米として、地域で限定発売される予定で、今後価格や販売量などを検討していきます。佐藤組合長は「今後もこのコンテストを続けることで、生産者の栽培技術向上につながると思う。また、地域の方々にも、丹精込めて作ったこのおいしいお米を、ぜひ食べてもらいたい」と話しました。

法令を順守した事業活動に取り組む

JAあきた白神

個人情報管理の徹底や重要性について理解を深め、コンプライアンスの確立、不祥事を起こさない、起こさせない職場風土づくりを目的に、JAは全職員を対象としたコンプライアンス研修会を実施しました。

研修会では、「不祥事の状況とコンプライアンス」、「パワーハラスメント防止」についてJAから説明されたほか、農林中央金庫の近江常彦さんを講師に『JAの個人情報保護と守秘義務』について研修が行われました。参加者は「研修を受けてコミュニケーションの重要性が認識できました。不祥事防止へ向け形だけの取り組みにならないよう、コンプライアンス遵守に努めていきたい」と話しました。



▲コンプライアンスの重要性を全職員で確認



▲拳銃で金を要求する犯人役の能代警察署員

強盗事件を想定し防犯訓練を実施

JAあきた白神

金銭の出し入れが多くなる年末を迎えるにあたり、非常時の対応・役割分担等を確認するため12月9日、本店にて、能代警察署と協力のもと、防犯訓練を行いました。

訓練では、犯人役の警察署員が拳銃を持って職員を脅し、現金を要求する形で実施され、迫真の演技に圧倒されながらも、全職員冷静な対応をすることができ、犯人の特徴を覚え、カラーボールを逃走車両に投げるなど、各々の役割を果たしました。また、「特殊詐欺」の防止訓練も行われ、窓口対応の女性職員が「お話を聞かせてください」と声を掛け、上司への相談や、警察官を呼ぶなどの適切な対応がとられました。

